

■ 2006年1月3日（火曜日）



昨年、県がまとめたレポート「ふくい2030年の姿」。この中で、25年後の福井は、都市部の人々が週末や定年後にゆったりした「スローライフ」を満喫する、快適な「ふるさと」として描かれています。そんな魅力あふれるふるさと・福井の実現に向けて、西川知事と若狭町で民宿を営んでいる田辺一彦さん、あわら市で県外から新規就農された山下茂人さんが対談しました。

司会 あけましておめでとうございます。

出演者全員 あけましておめでとうございます。

司会 まずは今日来ていただいた田辺さん、山下さんに自己紹介をお願いします。

田辺 私は、若狭町の三方五湖の湖畔で民宿を営んでいます。2年前から、民宿の部門とは別に、自然の中で楽しんでいただくアクティビティ部門として「自然に大の字 あそぼーや」を立ち上げ、活動しています。

山下 私は神戸市出身で、ミディトマトの栽培がしたくて、福井のあわら市の方へ移ってきました。今は主にミディトマトをつくっています。

司会 今日はこうした若い方々に集っていただいたのですが、知事いかがですか？

知事 そうですね。田辺さんも山下さんも、それ

ぞれ新しいことに積極的にチャレンジしている若い皆さんですから、いろいろ頑張っている様子を聞かせていただきたいと思います。

豊かな自然環境を生かした地域づくり

司会 さて、お二人のお仕事や暮らしについて、もう少し詳しく伺っていききたいと思います。まず田辺さんが運営する「あそぼーや」は、どんな活動をされているのですか？

田辺 若狭町の湖とリアス式海岸を使って、スキーやボードウォッチング、うなぎや手長エビ獲りなどを楽しんでいただいています。

私は大学の時東京に出ていたんですが、故郷に戻ってきて、若狭の自然の素晴らしさを改めて感じ、この自然を皆さんに楽しんでいただこう、また、自然を再発見していただこうと思ってこの活動を始めました。



司会 お客様の反応はいかがですか？

田辺 「これほどきれいとは思わなかった」ということで、皆さんすごく喜んでいただいています。2回、3回と繰り返し来て下さる方もいらっしゃいます。

司会 福井に住む私たちは、自分達の地域の魅力や豊かさに気づきにくいですが、神戸から来られた山下さんは、福井についてどう感じられましたか？

山下 人があたたかいというのが印象です。今住んでいる集落でも、他所から入ってきた私たちを心あたたかく迎えていただいて、とってもいいところだと思いました。

知事 そうですか。ご紹介いただきましたように、本県には県民の皆さんのあたたかい心がありますし、海あり里あり山ありということで、非常に自然にめぐまれています。また、春夏秋冬の季節もはっきりとしていますので、自然を利用して生活したり、あるいはものづくりをする所とし

て、福井は大変ふさわしい場所だと思います。

司会 「自然」という面では、昨年、田辺さんの「あそぼーや」の活動場所でもある三方五湖が、ラムサール条約湿地に登録されましたよね。

田辺 はい、大変うれしかったですね。

知事 ラムサール条約は、国際的な条約によって重要な湿地を指定するわけです。すでに琵琶湖などが登録されていましたが、今回は、尾瀬、阿寒湖など、全国的に有名な湖が多数登録されました。三方五湖も今回登録されたということで、我々も大変誇りに思っています。そして、このラムサール条約に登録されると、自然の保全と開発、両方のバランスをとりながら活用する「ウィズユース（賢明な活用）」ということが大切になります。我々の生活に合ったような利用の仕方をして、また環境を生かしていく、とすることが必要ですね。

田辺さんは、「三方五湖の保全・活用に関する検討委員会」のメンバーでもいらっしゃるということで、これから頑張っていたきたいですね。

田辺 今知事もおっしゃられたように、私も「賢明な活用」という点に着目して、自然と人間の

「共生」「循環」が図れないかと模索している最中です。自然と、その中で生きる住民と、観光に来られるお客様と、みんなが笑顔になれるような素敵な空間をつくるための共生のシステムづくりに向けて、取り組んでいきたいと思っています。

司会 各地域の自然や風土を上手に活用して、福井ファンを増やしていきたいですね。

知事、県内では他の地域でも、福井ならではの自然体験を提供する「エコ・グリーンツーリズム」の取り組みが始まっていますよね。

知事 そうですね。例えば棚田オーナーや田辺さんのように海を利用した体験、農家民宿などがあります。福井の場合は大阪や名古屋などから非常に近い場所にありますので、いろいろなメニューをしっかりと用意して、そういう都市圏の皆さんに来ていただきたいですね。

県の方でも、さまざまな形で応援していきたいと思っています。例えば、農家民宿については、法律上いろいろな取り決めがありまして、始めようと思っても家の改造などが大変なんです。そこで昨年11月には、専用のキッチンを設けなくてもお客さんに料理が提供できるよう、全国で初め

て県独自の規制緩和を行いました。こうした工夫によって、多くの人に福井ならではの体験を楽しんでいただきたいと思います。

ようこそ福井へ！

司会 そのように休日や休暇を利用してスローライフや自然体験を楽しみに福井へ来る方も増えていますが、自然とともに生きる暮らしを求めて福井に移り住む方も多くなっています。山下さんは、どうして福井で就農されたのですか。

山下 私は、大学を卒業してから、神戸の設計事務所で設計の仕事をしていたのですが、図面をパソコンで描くようになってから、毎日ひたすらパソコンと向き合う生活になってしまいました。そこで、もともと憧れていた農業への転職を決めました。

いろいろ情報収集をする中で、福井県では1週間の農業研修が受



けられることを知り、とにかく受けてみることにしたんです。福井での就農を決めたのは、その研修先の農家さんで「越のルビー」を食べさせてもらった時ですね。とってもおいしかったので、自分も是非つくりたいと思いました。

司会 越のルビーは、福井県が全国に誇る特産品の一つですから、県外の方にそこまで魅力を感じてもらえるというのはうれしいですね、知事。

知事 そうですね。越のルビーは福井のブランドですから。山下さんもぜひ頑張っておいしい越のルビーをつくってほしいですね。

私も個人的に趣味として、家庭菜園で野菜などつくっているのですが、ご家族で福井に移住されて、ビジネスとして農業をされるということは大変だと思います。実際、福井で農業をされてみてどうですか。

山下 そうですね。私は近くの直売所などで、つくった野菜などを販売しているのですが、袋の中にメッセージカードを入れていくんです。そうするとお客さんから「おいしかったよ」という手紙

や電話をもらうことがあって、大変励みになっています。

司会 田辺さんは、山下さんのお話を聞かれていますか？

田辺 やはり、県外から、福井に魅力を感じて来てくれる人を見ると、大変うれしいですね。

知事、県の方では、山下さんのように県外から福井へこられた方をサポートする取り組みはあるのですか？

知事 はい。福井の情報を、都会にお住まいの方など県外の人にわかっていただけるよう、まず広報をしっかりと行っています。

それから最初に福井のこと、農業のことについて知っていただくための短期間の研修を受け、充分理解していただくから、今度は長期間の研修でいろいろな農業技術などを学んでいただいています。

実際に移住された場合には、市町村と協力して、お住まいや農地の取得などといった手続き的な問題についてもサポートを行っています。こうした取り組みを通して、多くの皆さんに来ていただけるよう、努力をしているところです。

司会 さて、福井県の魅力についていろいろとお話を伺ってきましたけれども、最後に、皆さんの今年の抱負を教えてくださいたいと思います。

田辺 はい。私は「あそぼーや」を始めてから、県外から来たお客さんに福井の魅力を知ってもらおうと、いろんな活動をしてきました。そこで、今度は地元の子どもたちにも自分達の地域の本当の良さをわかってもらいたいと思い、昨年12月から子どもたちを対象とした様々な自然体験活動を始めました。今年はこの活動をさらに展開させていきたいと思っています。

山下 私の場合は、ミディトマト一本ですから、わからないことは県の農業指導員さんや近くの新規就農者の方々、農家の方々に聞き



ながら、ミディトマトづくりを極めていきたいと思います。

司会 最後に知事、お願いします。

知事 昨年、県の若手職員が中心になって作った「ふくい2030年の姿」というレポートには、県外から多くの方が訪れ、スローライフを満喫する福井の姿が描かれています。その未来像に少しずつ近づけるよう、お二人のように、若くて地道に頑張っている皆さんには、福井のモデルになっていただきたいですね。その姿を見ていただくことで、県外の方が「自分もやってみよう！」と思って福井に来ていただけるのではないかと思います。そういう良いサイクル、循環ができていくよう、いろいろ工夫をしていくとともに、皆さんにも積極的なPRをお願いしたいと思います。

司会 そうですね。今日は皆さんありがとうございました。

出演者全員 ありがとうございました。